

第20回わいわい川遊び

戦後73年のこの夏、第20回「わいわい川遊び」が晴天の中おこなわれました。綺麗になった黒目川には沢山の鮎が東京湾から遡上してきます。子ども達は魚とりと川遊びに夢中になりました。

当たり前ですが毎日が「平和」であることに感謝し、子ども達と一緒に遊んだ一日になりました。



今年も東久留米から「川の先生」が二人参加してくれました。子ども達に「魚の名前と特徴」を説明しているのは小松原さんです。そして、後方が菅谷さん。

お二人の投網で、今年も沢山の鮎が捕れました。勿論、鑑札を持つての投網です。本当はそれがないと鮎は釣ってはいけません。

この日採れたのは、「アユ」「オイカワ」「アブラハヤ」「カワムツ」「ホトケドジョウ」「メダカ」「ゲンゴロウ」……大人も子どもも夢中になって、魚を追いかけてました。

小松原さんの説明に子ども達は勿論、大人も真剣な目で「質問」をしていたのが印象的でした。



2018年8月31日発行



手網を手にタイヤボートに乗り込んだ男の子達は「川を下る!!」と小さな滝に向かって行こうとしました。流石です。計画は失敗しましたが……(笑) ㊦

たかやんのプロフィール



1954年、港区青山生まれ。新宿区立西戸山小中学校卒。超有名な悪ガキだった。

偏差値も40しかなく、西戸山中学校1年生の時には「バスケット部」「バレー部」「テニス部」と3つの部活を渡り歩くなど、いい

加減な中学生の見本のような生徒だった。そんなバカチンが中学2年生の時に出会った河合先生の影響で勉強も始め、しまいには中学校の教師になってしまったのだからふざけている。

五中、六中、二中時代は理科・数学・国語・体育・英語などの教科を担当する。

今は石神3丁目の「たかやん塾」で小中高生の子供達と一緒に学ぶのが生きがいである。

写真は石神井高校の1年先輩の宮下さん。いつも一緒に練習をしているが1回しか勝ってない。

駅立ちを初めて12年に。ひばりが丘、東久留米、保谷、新座、志木、清瀬…の順に立っている。

9月議会では「PTA」「不登校生徒の高校進学」「保谷・朝霞線」「待機児童」「コード付き点字ブロック」「障がい者雇用」「受動喫煙防止条例」「学童保育室の民営化」「米軍基地問題」を取り上げる。㊦

③ 産業道路に注目せよ！

ここに3つの資料があります。1つは26年の7月にあった説明会で県が作成した資料です。

注目したのは「産業道路」の予想交通量でした。平成42年度の1日の交通量予想(12年後です！)保谷・朝霞線整備せず(今の状態)→21700台
保谷・朝霞線20m幅、2車線整備→25600台
保谷・朝霞線27m幅、4車線整備→19700台となっています。最悪は20m幅、2車線整備で、最良が27m幅、4車線整備と結論しているのです。

ここに直近の実際の交通量を示す資料があります。この9月議会で僕が要求した資料です。同じ埼玉県による交通量調査結果には平成27年9月17日の産業道路での交通量は平均15000台なのです。この数字は未来の27m幅、4車線の19700台をかなり下回っています。

もう1つの資料は石島陽子議員が作成した資料です。その資料には新座市内の練馬・所沢線を除く全ての道路が22年よりも27年の方が交通量が減ってきている数字が示されています。

この傾向は全国でも埼玉県全域でも同じです。実台数が新座市内も県内も全国でも減少していることを示しています。「少子高齢化社会」なのですから、当たり前ですね。詰まり、このまま何もしなければ、産業道路の15000台はどんどん減っていくこととなります。今の軽い渋滞もなくなりますね。

埼玉県が住民説明会に出した数字の出鱈目なことが分かります。この説明会は「2車線じゃなくて4車線じゃないと駄目」という為に、嘘の数字を並べたのです。東京都が出した都県境の交通予想と埼玉県が出した予想で15000台も県の予想が多いのも頷けます。



③ 教師を目指す人へのメッセージ2

前回、好評でしたので・・・「駄目な自分を語る」をお届けします。

子ども達は先生の凄いところを話されるより、先生の駄目なところを話された方が喜びます。「俺は勉強が出来たんだ」「オール5だった」「有名大学を出た」「ずっと学級委員だった」なんて自慢話をされても、何も嬉しくないものなのです。

僕の場合は、本当に悪ガキだったので、駄目なところばかりで、子ども達は大喜びでした。「中一まで最長でも5分しか机に向かえなかった話」とか、「小学校5年生の時に、帰りの学活でお腹が痛くなって、先生の話が長くて、長くて・・・恥ずかしくて、どうしても学校のトイレに行けなくて・・・家に帰る途中で、遂にブリッと出てしまって・・・一度、出てしまったら、もうブリブリブリブリって、怒涛のようにウンコが半ズボンの脇から溢れてきたんだ」なんて、話をすると、子ども達は大いに喜ぶ訳です。

教師になってからの、大失敗も子ども達は喜びます。そりゃあ、そうです。いつも偉そうにしている目の前の「先生」から、目も当てられないような「失敗談」を聞くのですから・・・”家庭訪問でお母さんと二人切りの時に、座った瞬間「ブーッ！」とおならが出てしまって、もうごまかしようがなくて、二人で顔を見合わせて、大笑いしたんだ。”そんな話も大いに受けました。

子ども達は「うんこ」と「おなら」の話が大好きですから、もし経験があったら・・・是非、子ども達に話しをしてみてください。その日から、「うんこ」というあだ名をつけられてもいい・・・それくらいの覚悟は必要ですが・・・子ども達との距離が一気に近づくことは確かです。因みに、そんな失敗談をしても、僕のあだ名が「うんこ」になることはありませんでした。昔も今も、ずっと「たかやん」です。

* 因みに僕は今でも「失敗」ばかりしています。議会でも「失敗」しては謝ってばかりいます。

子ども時代に沢山「失敗」してきたせいか、失敗にはもしかしたら強いかも知れません。大学受験にも失敗したし、教師はやめてしまったし、選挙にも落ちました。僕の人生そのものが「失敗」のような人生なのです。そんな僕にも友達がいて、応援してくれる人がいて、本当に幸せです。ありがと！③

読み終わりましたら、お知り合いの方にさしあげてください m (_ _) m